

食品安全情報（化学物質） No. 19/ 2022 (2022. 09. 14)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

<注目記事>

【WHO】 ナノ及びマイクロプラスチック粒子の食事及び吸入暴露とヒト健康への意味

世界保健機関（WHO）は、2019年8月に公表した飲料水中のマイクロプラスチックに関する報告書に続き、食品や空気中も含めた包括的な暴露による健康リスクに関する報告書を発表した。2021年12月までに入手可能なデータを対象にしている。総合的な結論では、現時点では必要とされるデータが不足しており、ヒトに対する暴露評価やリスク評価を行うことができないとしている。

*ポイント： 経口と吸入暴露によるリスクの可能性については、2021年に英国毒性委員会（COT）が、毒性や体内動態の情報がなく適切な分析法や標準物質もないことから評価できないと結論していました。今回のWHOのレビューでも同様の結論に至っています。特に、体内へ取り込まれると考えられる10 μmより小さい粒子の定量とキャラクター化に係わる問題解決が重要だと指摘しています。

【EC】 食品中のパーフルオロアルキル化合物の管理について

欧州委員会（EC）は、EU加盟国と食品事業者が協力して食品及び飼料中のパーフルオロアルキル化合物（PFASs）のモニタリングを行うことを促す委員会勧告とサンプリング及び分析法に関する委員会実施規則を発表した。

*ポイント： モニタリング期間は2022年から2025年で、欧州食品安全機関（EFSA）がグループ耐容週間摂取量（TWI）を設定した4つのPFASsが主な対象です。さまざまな食品を広く調査することに加えて、家畜への移行を考慮して飼料中のPFASsも可能なら測定することを勧告しています。EUでは動物由来食品についてこれら4つのPFASsの最大基準値の設定が進められているようなので、近いうちに発表されるかと思えます。

【BfR】 キノコ：間違えると致命的

ドイツでは自ら採取したキノコを食べた後に頻繁に中毒が発生しており、連邦中毒センターはキノコについて年間3,000以上の問い合わせに対応している。国内で人気のある食用キノコはハラタケ（*Agaricus campestris*）や食用のベニタケ属などである。採取者はよく食用キノコと有毒なタマゴテングタケ（*Amanita phalloides*：通称 death cap）を間違えている。タマゴテングタケに含まれる毒素は肝臓障害を誘発し、ごく少量を食べただけで致命的となるほど毒性が高い。ドイツで致命的となったキノコ中毒の少なくとも80%はこのキノコが原因と推定している。ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）がキノコ採取に関する重要な助言を紹介する。

*ポイント： 日本もキノコ狩りの季節となり、有毒なキノコとの誤認には注意が必要です。タマゴテングタケの毒性分はアマニトキシニンというペプチドの毒素で、日本では同類の毒成分を含むドクツルタケ（*Amanita virosa*）やシロタマゴテングタケ（*Amanita versata*）による死亡事例が報告されていますので注意しましょう。

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【WHO】](#)

1. ナノ及びマイクロプラスチック粒子の食事及び吸入曝露とヒト健康への意味
2. 国際鉛中毒予防週間 2022
3. イベント
4. 国際がん研究機関（IARC）

[【FAO】](#)

1. Codex

[【EC】](#)

1. 食品中のパーフルオロアルキル化合物の管理について
2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. 第三国伝統食品としてのオニバスの種子の煎ってはじけたカーネルの通知に関する技術的報告書
2. 農薬関連
3. (生態)毒性試験におけるヒストリカルコントロールデータの報告・使用・解釈方法に関する準備作業
4. 飼料添加物関連

[【FSA】](#)

1. 2022年9月のFSA理事会ペーパーが公表される

[【FSS】](#)

1. スコットランドはパンと小麦粉規則の更新に関する協議を行う
2. Beat the Squeeze – 健康を維持しながらお金を節約する

[【DEFRA】](#)

1. 胎児の脳と脊髄の病気を予防するために小麦粉に葉酸添加

[【COT】](#)

1. 2022年9月6日の会合

[【ASA】](#)

1. 助言
2. ASAの健康的食環境に関するウェールズ政府の相談への回答
3. ASAのエネルギー飲料に関するウェールズ政府の相談への回答
4. ASA裁定

[【BfR】](#)

1. キノコ：間違えると致命的
2. 世界的に連携：消費者の健康保護を強化するための研修

[【RIVM】](#)

1. ドルドレヒト、パペンドレヒト、スリードレヒト、モーレンランデンの自治体の菜園からの菜園作物におけるPFASのリスク評価
2. *Salvia divinorum*（を含むハーブ製品）のリスク評価
3. 地表水のPFASリスク限度値. EFSAの健康影響に基づくガイダンス値から導出した地表水濃度基準

[【FSAI】](#)

1. 次回の Breakfast Bite：保存可能期間

[【FDA】](#)

1. 違法な健康製品に対処するための政府全体によるアプローチ
2. FDAは特定の種類の表示を含む動物用食品の規則に関するバーチャルリスニングセッションを発表する
3. 消費者向け情報
4. 警告文書

[【EPA】](#)

1. EPA は人々の健康を守るためにある種の PFAS 化合物をスーパーファンド法に基づく有害物質に指定
2. EPA は農薬製品に認可されているある種の PFAS の使用中止を提案
3. EPA と日本環境省は二国間環境協力継続について共同声明を発表
4. EPA はコロラド州 Lakewood でエチレンオキシドの更新リスクを発表する地域会議を行う

[【USDA】](#)

1. ホワイトハウス飢餓、栄養、健康に関する会議—もうすぐ！
2. APHIS は最初の規制状態レビュー回答を発表：Norfolk 植物科学の紫トマト

[【NIH】](#)

1. スクープ-2022 年秋

[【FTC】](#)

1. FTC の報告書はフレーバー付き使い捨て電子タバコとメンソール電子タバコカートリッジの販売が劇的に急増したことを強調する

[【York Region】](#)

1. ヨーク地域公衆衛生局は食品中の毒素の可能性を調査している

[【FSANZ】](#)

1. 食品基準ニュース
2. 食品基準通知

[【TGA】](#)

1. 安全性助言：ペニソールカプセル（アーユルベータ医薬品）

[【MPI】](#)

1. プレスリリース
2. 警告

[【香港政府ニュース】](#)

1. 食品事故報告
2. 違反情報

[【MFDS】](#)

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 食薬処、安心な食事とバイオ・デジタルヘルス革新成長支援などのための来年度予算案 6,694 億ウォン編成
3. 効率的な HACCP 管理のためにハザード分析情報の提供を拡張
4. 畜産物に使用する動物用医薬品のリスク評価安全情報を公開

[【SFA】](#)

1. 変革への道：養豚を終えたシンガポールの養豚家たち
2. 食品取扱者のマスク又はマウスシールドの着用に関する注意喚起について
3. リコール情報

[【その他】](#)

- ・ 食品安全関係情報（食品安全委員会）から 11 件
- ・ ProMED-mail 1 件
- ・ カナダ薬物使用と依存センター（CCSA）

● 世界保健機関（WHO : World Health Organization） <http://www.who.int/en/>

1. ナノ及びマイクロプラスチック粒子の食事及び吸入暴露とヒト健康への意味

Dietary and inhalation exposure to nano- and microplastic particles and potential implications for human health

30 August 2022

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240054608>

新興汚染物質としての環境中のマイクロプラスチックが人々の関心を集めている。ポリマーそのものからモノマー、プラスチック素材の製造に使用される添加物、吸着した汚染物質や関連するバイオフィームに至るまで、マイクロプラスチック粒子に暴露されることによるヒトの健康影響について疑問が持たれている。そこで WHO は 2019 年 8 月に、飲料水中マイクロプラスチックについてのレビューを行い、報告書を発表した。マイクロプラスチック暴露に関連する健康リスクの可能性を評価する WHO の努力を継続するため、食品、水、空気を含む環境からの暴露を調べるプロジェクトが実施されている。2019 年に集められた国際専門家の支援を得て、2021 年 12 月までに入手可能だったデータをレビューした。この結果、WHO は必要な研究と、現在の不確実性に対処するために必要な将来の仕事の展望を示した。

* 報告書 : Dietary and inhalation exposure to nano- and microplastic particles and potential implications for human health

<https://apps.who.int/iris/rest/bitstreams/1462024/retrieve>

総合的な結論として、現時点で入手可能なデータは限られ不足している。そのため、ヒトでの総合的な暴露評価は不可能であり、ナノ及びマイクロプラスチック粒子によるヒトへの有害影響に関する科学的根拠の重みが低く、リスク評価も行えない。

暴露

体内への取り込まれるのは 10 μ m（マイクロメートル）より小さい粒子と考えられているが、水、食品や飲料中に含まれるそのサイズの粒子を測定した入手可能なデータは限られている。また、定量分析や有害影響の観察に使われる方法はバラバラであり、そのことがデータを評価する上で重大な欠点となっている。

飲料水、食品や飲料の摂取を介して暴露されることを示した研究報告はあるものの、それらの研究の質に懸念がある。実験室でのコンタミネーションの調査とともに、一貫した分析法、標準法が必要である。10 μ m より小さい粒子の定量とキャラクター化が重要だが、それを抽出・分離・妥当性確認するのに相当な課題がある。粒子が小さくなればなるほどバックグラウンドのコンタミネーションが増えると予想されるので、しっかりした品質保証と品質管理（QA/QC）が必要である。

疫学研究

職業暴露による疫学研究は多数あるが、それらは一般の集団を反映していない。また

文献は限られており、質が不適切である。

動態

吸入や飲み込まれた粒子の多くは排出され組織暴露は限定的であろう。体内への取り込みの可能性は粒子サイズが小さいほど大きくなる。粒子が生物的バリアを超える可能性を含む分布や取り込みに関する情報が不足している。現在の *in vitro* モデルでは *in vivo* の状況を予想できない。

毒性

吸入や食事暴露のデータはポリスチレンビーズの研究に限定される。入手可能なデータは不十分で QA/QC が適切に考慮されていないことが懸念される。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 18/ 2019（2019. 09. 04）

【WHO】WHO はマイクロプラスチックにさらなる研究とプラスチック汚染対策を要請
<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201918c.pdf>

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 5/ 2021（2021. 03. 03）

【COT】マイクロプラスチックへの暴露に由来するリスクの可能性についての包括的声明概要

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202105c.pdf>

2. 国際鉛中毒予防週間 2022

International Lead Poisoning Prevention Week 2022

<https://www.who.int/campaigns/international-lead-poisoning-prevention-week/2022>

2022 年 10 月 23-29 日、第 10 回国際鉛中毒予防週間を迎える。今年のキャンペーンのテーマは「Say no 鉛中毒」である。行動週間のイベント開催を支援するための資料や技術的ガイダンス等を提供している。

● 鉛中毒

Lead poisoning

31 August 2022

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/lead-poisoning-and-health>

（鉛中毒の概要を記したサイト）

WHO による化学物質による公衆衛生への影響に関する 2021 年の更新情報によると、2019 年の化学物質暴露により失われた 200 万人ほどの命のうち半分近くが鉛暴露によると推定された。鉛への暴露は健康への長期的な影響によって 2,170 万 DALYs（障害調整余命年数：障害と死亡に基づく）の損失に及ぶと推定され、それは突発性知的障害の世界的負荷の 30%、心血管疾患では 3%、慢性腎臓疾患の 3%になる。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 15/ 2021（2021. 07. 21）

【WHO】化学物質の公衆衛生への影響についての新しいデータ：わかっていることとわ

からないこと

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202115c.pdf>

- **飲料水中鉛：健康リスク、監視、是正措置**

Lead in drinking-water: Health risks, monitoring and corrective actions

31 August 2022

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240020863>

技術的概要文書

3. イベント

- **食料システムを転換する：食事と気候、どうやって FBDG は持続可能な食料システムから健康的な食事を届けるのを援助できるのか？**

Transforming Food Systems: Diets and climate, how FBDG can help deliver healthy diets from sustainable food systems?

8 September 2022

<https://www.who.int/news-room/events/detail/2022/09/08/default-calendar/transforming-food-systems-diets-and-climate-how-FBDG-can-help-deliver-healthy-diets-from-sustainable-food-systems>

ウェビナー開催：2022年9月8日

食品ベースの食事ガイド（Food-based Dietary Guidelines : FBDGs）は、入手できる最良の根拠と国情の分析から、その国や地域特有の健康的な食生活とは何かを詳述するものである。FBDGs は一般市民に対して健康的な食事に関するアドバイスを提供し、様々な政策やプログラムの指針となる。FBDGs は伝統的に社会文化的な側面を考慮してきたが、近年では、食事と気候の間の重要な関連性を反映し、他の持続可能性、特に環境の持続可能性を考慮するようになってきている。

今回のウェビナーでは、参加者同士の学習を促し、加盟国の要望に応え、また持続可能な食料システムによる健康な食生活のビジョンに対する食品ベースの食事ガイドの貢献、特に気候への配慮の統合に関する議論の触媒となることを目指している。

4. 国際がん研究機関（IARC）

- **世界がん報告更新教育ツールキット**

Launch of the World Cancer Report Updates Teaching Toolkit

7 September 2022

<https://www.iarc.who.int/news-events/launch-of-the-world-cancer-report-updates-teaching-toolkit/>

IARC と欧州腫瘍医学会(ESMO)が協力して、がん予防のためのがん研究についての世界がん報告更新教育ツールキットを発表する。この無料のオンライン教育ツールキットはが

ん予防のためのがん研究の知識とスキルを伝えることを支援する。

* Cancer Research for Cancer Prevention

TEACHING TOOLKIT

<https://learning.iarc.fr/wcr/courses/cancer-research-toolkit/>

●国連食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations）

<http://www.fao.org/>

1. Codex

CCAFRICA24：規格はアフリカ全土の食品安全と競争力を向上させることができる

CCAFRICA24 / standards can improve food safety and competitiveness across Africa

06/09/2022

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1603899/>

2022年9月5日、第24回コーデックスアフリカ地域調製部会がカンパラ・ウガンダからバーチャル形式で開始し、アフリカ全土での食品安全規格への調和が呼び掛けられた。

* CCAFRICA24

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=CCAFRICA&session=24>

●欧州委員会（EC：Food Safety: from the Farm to the Fork）

https://ec.europa.eu/food/safety_en

1. 食品中のパーフルオロアルキル化合物の管理について

● 食品中のパーフルオロアルキル化合物のモニタリングに関する委員会勧告

Commission Recommendation (EU) 2022/1431 of 24 August 2022 on the monitoring of perfluoroalkyl substances in food

<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A32022H1431>

2022年から2025年にかけて、加盟国当局と食品事業者が協力して食品及び飼料中のPFASのモニタリングを行うことを勧告。対象のPFASは下記4種とし、可能であれば他のPFASも含めること。さらに、汚染源に関する追跡調査の実施をすすめる指標値も提示している。

(a) パーフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)

- (b) パーフルオロオクタン酸 (PFOA)
- (c) パーフルオロノナン酸 (PFNA)
- (d) パーフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)

- 食品中のパーフルオロアルキル化合物の管理のためのサンプリング及び分析法に関する委員会実施規則

Commission Implementing Regulation (EU) 2022/1428 of 24 August 2022 laying down methods of sampling and analysis for the control of perfluoroalkyl substances in certain foodstuffs

https://eur-lex.europa.eu/eli/reg_impl/2022/1428/oj

2022年9月15日に発効予定。

2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

26/08/2022～10/09/2022の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

*基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

*RASFFへ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

チェコ共和国産(オランダ産)フードサプリメントの THC 高含有、イスラエル産ミントの未承認物質クロルフェナピル・クロロタロニル・ジメトエート及びオメトエート、ハンガリー産フードサプリメントの未承認物質タダラフィル、オランダ産リンゴソースのパツリン、米国産チョコレートチップクッキーの 3-モノクロロ-1,2-プロパンジオール (3-MCPD)、カナダ産飼料用ダイズのブタクサの種子高含有、ベルギー産ジャガイモのホスチアゼート、中国産有機クロレラタブレットの水銀、ドイツ産ヒマワリ油の 3-MCPD、ベトナム産オランダ経由生のカエルの足の未承認物質オフロキサシン、中国産インスタントスープのエチレンオキシド、トルコ産刻んだ乾燥イチジクのオクラトキシン A、アイルランド産牡蠣の規制値を超えたアザスピロ酸、ベトナム産冷凍グルクマのヒスタミン、トルコ産乾燥甘草の未承認物質マトリン及びオキシマトリン、デンマーク産リンゴジュースのパツリン、スペイン産ドイツ経由アーモンドミールのアフラトキシン、など。

注意喚起情報 (information for attention)

ウズベキスタン産レーズンのオクラトキシン A、モロッコ産乾燥ミントのカルベンダジ

ム・シペルメトリン及びラムダ-シハロトリン、ケニア産チリのメタミドホス・アセフェート及びクロルピリホス、エクアドル産ブロッコリーの塩素酸塩、トルコ産サルタナレーズンのマイコトキシン類(オクラトキシン A)、タイ産冷凍塩味雷魚のマラカイトグリーン及びロイコマラカイトグリーン、セルビア産モモのクロルピリホスエチル、ブルンジ産ナスのアセフェート・ジメトエート・オメトエート・プロフェノホス及びメタミドホス、コソボ産ブルーベリーフルーツジュースの未承認着色料タートラジン(E102)・サンセットイエロー(E110)・アズルビン(E122)及びポンソー4R/コチニールレッド A(E124)、ポーランド産原料ドイツ産ハウレンソウのカドミウム、米国産殻剥きカリフォルニアアーモンドのアフラトキシン、オランダ産茶の未承認食品成分(リippia・アルバ)及び表示欠陥の疑い、中国産ショートブレッド用 AISI 202 ステンレス型の未承認物質スズの存在及び鉄とスズの相当量の移行、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

中国産フライパンの芳香族第一級アミンの溶出、インド産バスマティ米のチアメトキサム及びトリシクラゾール(複数あり)、エジプト産殻付きピーナッツのアフラトキシン、パキスタン産米の未承認物質クロチアニジン・イミダクロプリド及びチアメトキサム、イラン産殻付きピスタチオのアフラトキシン、トルコ産乾燥レモンのクロルピリホス及びブプロフェジン、トルコ産有機乾燥イチジクのオクラトキシン A、ロシア産ヒマワリ種子のクロルピリホス、インド産ナッツクラッカーズナックのアフラトキシン、インド産フードサプリメントのエチレンオキシド、セルビア産フードサプリメントの二酸化チタン(E171)の未承認使用、マレーシア産パーム油の 3-MCPD 許容最大量超過、ボスニアヘルツェゴビナ産生鮮ペッパーのホルメタネート、チリ産レーズンの未承認物質クロルピリホス、エジプト産オレンジのクロルピリホス、北マケドニア共和国産ブドウのチアクロプリド、インド産米のチアメトキサム及びトリシクラゾール、イスラエル産バジルのプロモプロピレート・クロルピリホス及びピラクロストロビン、トルコ産有機乾燥イチジクのオクラトキシン A、バングラデシュ産コメのクロルピリホス・トリシクラゾール及びカルベンダジム、など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu/>

1. 第三国伝統食品としてのオニバスの種子の煎ってはじけたカーネルの通知に関する技術的報告書

Technical Report on the notification of roasted and popped kernels from the seeds of *Euryale ferox* Salisb. as a traditional food from a third country pursuant to Article 14 of Regulation (EU) 2015/2283

EFSA Journal 2022;19(9):EN-7538 5 September 2022

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-7538>

(技術的報告書)

規則(EU) 2015/2283 第14条により、Zenko Superfoods Pte. Ltd.社(シンガポール)から、第三国伝統食品(TF)として、オニバスの種子の煎ってはじけたカーネルを市販するための通知が欧州委員会に提出された。当規則の第 15(2)条に従って、EFSA は欧州委員会から、欧州連合(EU)内でこの TF を市販するのに正当な理由のある安全上の反対の根拠があるかどうか求められた。この TF はオニバスの種子の煎ってはじけたカーネルからなり、申請者によると、これはインドで 25 年以上摂食されている。この TF はスナックとして EU で販売することが提案されている。EFSA はこの TF の組成や摂食歴に関する入手可能なデータから安全上の懸念は生じないと考えた。入手可能なデータを考慮して、EFSA は EU でこの TF(オニバスの種子の煎ってはじけたカーネル)の市販に対する安全上の異議を唱えない。

2. 農薬関連

● アバメクチンの農薬リスク評価ピアレビュー

Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance abamectin

EFSA Journal 2022;20(8):7544 30 August 2022

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7544>

(農薬の結論)

情報不足と懸念が確認された。

● イプコナゾールの承認のレビューに関する声明

Statement concerning the review of the approval of the active substance ipconazole

EFSA Journal 2022;20(8):7133 26 August 2022

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7133>

(声明)

欧州委員会は 2021 年 10 月に EFSA に、規則(EC) No 1107/2009 第 21(2)条に従って科学的・技術的支援を提供するよう、また有効成分イプコナゾールの承認のレビューに照らし、報告担当加盟国(RMS)の評価を考慮して申請者が提出した情報に関する声明を出すよう求めた。この声明にはイプコナゾールの使用により鳥類に引き起こされるリスクや、規則(EC) No 1107/2009 付属書類 II の 3.6.4 に設定されているヒトへの無視できるほどの暴露(食事と食事以外の暴露)に関する条件が満たされるかどうかの、主な評価結果の概要が含まれている。特定された懸念が提示されている。

3. (生態)毒性試験におけるヒストリカルコントロールデータの報告・使用・解釈方法に関する準備作業

Preparatory work on how to report, use and interpret historical control data in (eco)toxicity studies

(外部科学報告書)

ヒストリカルコントロールデータ(HCD)は毒性試験の対照動物や何の処置も受けていない臨床的に健康な動物についての情報である。この用語は、評価試験における同一種や同じタイプの毒性試験で観察された、所見の自然発生率又は連続パラメータのバックグラウンドの変動を示すものである。様々な規制の枠組みにわたる HCD 提出のための原理原則や一般条件はとても類似しているように思われるが、これらのデータの目的や解釈は不均一で、同一化合物の試験結果の解釈や最終リスク評価に違いが生じる可能性がある。EFSA は、主に EFSA の審議対象物質群で提出された毒性試験の評価におけるヒストリカルコントロールデータの使用・報告・解釈に関する基準について、綿密な理解の必要性を認識している。このプロジェクトの枠組みで、HCD の共通認識をより詳しく調査するために、3つの活動が重要だと考えた。1つ目の活動では、科学文献検索を実施し、検索された関連記事をまとめ、テーマ毎にまとめた。関連論文の多くは長期/発がん性試験、発生毒性、統計学に関連していた。さらに、HCD を含む公開データベース(Charles River, MARTA, NTP, RITA)や、関連する OECD 文書(試験ガイドライン、ガイダンス文書及びガイダンスノート)が、HCD に関する更なる情報のためにスクリーニングされた。文献から特定されたテーマは、一方で HCD の使用に関する毒性学者やリスク評価者の経験を把握するために、世界的調査の具体的な質問案に使用された(2番目の活動)。もう一方で、特定されたテーマは、関連する利害関係者と共に企画したワークショップにおける議論の関連ポイントを詳しく調査することを目的としている(3番目の活動)。この調査で得られたフィードバックから、このテーマの関心はかなり高く、HCD 使用要件の調和への強いニーズが表明されたことが示された。これは 2022 年 5 月 3~5 日にバーチャルイベントとして開催されたワークショップで承認され、主な結論は、結果の解釈として HCD を考慮する前に明確な一連の基準を満たす必要があること、これらを編集して提出する時に HCD に高レベルの精度が必要であること、試験結果の解釈に HCD を含む時には、様々な分野(毒性学、統計学)間の緊密な意見交換が重要であることであった。当該プロジェクト活動の成果は、EFSA の PPR パネルの HCD の使用・報告・解釈に関する科学的意見案の中で考察される予定である。

4. 飼料添加物関連

- 全ての家禽種用カルバクロール、チモール、d - カルボン、サリチル酸メチル、l - メントール (Biomim® DC - P)の調合からなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of a preparation of carvacrol, thymol, d - carvone, methyl salicylate and l - menthol (Biomim® DC - P) for all poultry species (Biomim GmbH)

(科学的意見)

FEEDAP パネルは十分なデータがないので、皮膚及び眼での効能並びに他の産卵/繁殖用家禽種における有効性に関して結論付けられない。

●英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <http://www.food.gov.uk/>

1. 2022年9月のFSA理事会ペーパーが公表される

FSA Board meeting papers published for September 2022

1 September 2022

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/fsa-board-meeting-papers-published-for-september-2022>

FSA 理事会ペーパーが発表された。議題は、遺伝子工学（精密育種）法案、動物福祉レポート、食品過敏症プログラム等に関して。

●FS スコットランド (FSS : Food Standards Scotland)

<http://www.foodstandards.gov.scot/>

1. スコットランドはパンと小麦粉規則の更新に関する協議を行う

Scotland to be consulted on updated Bread and Flour regulations

1 SEPTEMBER 2022

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/scotland-to-be-consulted-on-updated-bread-and-flour-regulations>

スコットランドは非全粒粉の小麦粉に特定の栄養素を添加することを義務付ける *Bread and Flour Regulations 1998* (パンと小麦粉規則 1998) の改正に関する英国の協議に参加する。現在、非全粒粉の小麦粉に添加されている栄養素の調整や、葉酸の添加について協議する。

2. Beat the Squeeze – 健康を維持しながらお金を節約する

Beat the Squeeze - saving money while staying healthy

1 SEPTEMBER 2022

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/beat-the-squeeze-saving-money-while-staying-healthy>

スコットランド食品基準局 (FSS) のシニア公衆栄養学アドバイザーである Fiona Comrie

が、健康を維持しながらお金を節約する食事についての質問に答える。

- 健康的でありながらお腹が満たされる食品とは？
- Five-a day (1日5単位の野菜か果物を食べよう) が難しい人もいる。野菜と果物の摂取量を増やすためのヒントは？
- 節約しなければならない時、優先順位は？
- 食品にかかるお金を節約しつつ健康的に、またおいしく食べるためのヒントは？
- ケーキやアイスなどのおやつは、お金が苦しい時真っ先に諦めるべきものか？
- アボカドやチアシードのようなスーパーフードは値段が高い傾向にある。いわゆるスーパーフードなしに良い食事を取ることは可能か？

-
- 英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA : Department for Environment, Food and Rural Affairs) <http://www.defra.gov.uk/>

1. 胎児の脳と脊髄の病気を予防するために小麦粉に葉酸添加

Folic acid added to flour to prevent brain and spinal conditions in fetuses

1 September 2022

<https://www.gov.uk/government/news/folic-acid-added-to-flour-to-prevent-brain-and-spinal-conditions-in-foetuses>

DEFRA は、全粒粉ではない小麦粉に葉酸の添加を義務付ける「Bread and Flour Regulations」における、添加する葉酸の量に関する提案に対して、英国全土でのパブリックコメントを11月23日まで募集する。業界及び関係者との協議を経て、政府は小麦粉100グラムあたり250マイクログラムの葉酸の添加を提案している。

葉酸は、妊娠初期に発生する発達障害で、英国では毎年約1,000人の妊娠が影響を受けている神経管欠損症のリスクを低減する。パンなどの小麦粉を使った食品に葉酸を添加することで、年間総数の約20%の神経管欠損症の回避に貢献する可能性がある。

-
- 英国毒性委員会 (COT : Committee on Toxicity of Chemicals in Food, Consumer Products and the Environment)

<http://www.advisorybodies.doh.gov.uk/cot/index.htm>

1. 2022年9月6日の会合

COT Meeting: 6th September 2022

Last updated: 02 September 2022

<https://cot.food.gov.uk/COTMeeting6thSeptember2022>

*資料が追加された

<議題と資料掲載>

- 7月12日の会合の議事録
- ポジションペーパー: バイオ食品接触物質(BBFCM)としてのキトサンについて (Annex B は非公開)
- 航空機の客室の空気
- **母親の健康への鉛の影響についての第二次声明案**

Second draft statement on the effects of lead on maternal health

<https://cot.food.gov.uk/Second%20draft%20statement%20on%20the%20effects%20of%20lead%20on%20maternal%20health>

- パンと小麦粉規制での強化物質ガイダンス量の見直し
- 食品中化学物質の慢性食事暴露評価方法についての FSA/HSE/VMD 報告書案
- 母親の食事の中のラズベリーの葉の健康影響
- **緑茶カテキンの安全性—最初の声明案**

The safety of green tea catechins- first draft statement

<https://cot.food.gov.uk/The%20safety%20of%20green%20tea%20catechins-%20first%20draft%20statement>

- **他の FSA 科学助言委員会の作業の更新—2022 年 9 月**

Update on the work of other advisory committees - September 2022

Last updated: 02 September 2022

<https://cot.food.gov.uk/Update%20on%20the%20work%20of%20other%20advisory%20committees%20-%20September%202022#scientific-advisory-committees-sac-summary-of-recent-activities>

科学評議会

- 食品安全と二酸化炭素排出ゼロについての作業委員会の進捗状況、等
社会学助言委員会

- 家庭の食料不足について
- キッチンライフ 2 プロジェクト、気候変動の消費者食行動への影響、等
新規食品と工程についての助言委員会

- 第三国伝統食品である吹雪花 *Tetradenia riparia* について初めてレビュー。いくつか情報が不足している。
- ラクト-N-フコペンタオース I (LNFP-I) と 2'-フコシルラクトース (2' FL) 混合物 (LNFP-I/2'-FL) 及び 3'-フコシルラクトースについてレビュー
- 緑豆タンパク質の申請者にアレルギー誘発性について情報を求める、等
発がん性委員会 (COC)

- サプリメント中ヒドロキシアントラセン誘導體

- ホライゾンスキャン、等

*COC の会議資料は以下

<https://www.gov.uk/government/groups/committee-on-carcinogenicity-of-chemicals-in-food-consumer-products-and-the-environment-coc>

変異原性委員会 (COM)

- EFSA の二酸化チタンについての意見レビュー
- サプリメント中ヒドロキシアントラセン誘導體
- ホライゾンスキャン
- BPA
- 燻製香料
- 「発がん性リスク評価におけるバイオマーカーの使用」ガイダンス声明案
- 「懸念のある化合物を評価する時のデータの信頼性と妥当性をどう評価するか」文書案

*COM の会議資料は以下

<https://www.gov.uk/government/organisations/committee-on-mutagenicity-of-chemicals-in-food-consumer-products-and-the-environment/about#meetings>

栄養に関する科学助言委員会

- 1-5 才の子供の食事
- 栄養と COVID

- 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. 助言

- 食品：1日5単位クレーム

Food: 5 A DAY claims

Advice online 01 Sep 2022

<https://www.asa.org.uk/advice-online/food-5-a-day-claims.html>

政府のガイドラインで野菜や果物を1日5単位食べることを勧めている。1単位がどのくらいかはNHSのウェブサイトで説明している。政府の健康メッセージを参照する広告は健康強調表示とはならずその規則はあてはめられないが、誤解を招くことに関する一般規則は適用される。製品が1日5単位中の1単位に相当すると主張する場合には基準を満たすことを示す必要がある。

- オーガニック：農薬

Organic: Pesticides

Advice online 01 Sep 2022

<https://www.asa.org.uk/advice-online/organic-pesticides.html>

注：ASA と CAP (Committee of Advertising Practice : 広告行為委員会)、は現在気候変動と環境プロジェクトを行っており、環境に関するクレームの規制を調べている。この記事は現在の立場を説明するものだが、将来更新される可能性がある。

CAP は、特定の状況下では、有機生産者は「認可された」農薬や化学物質を使うことができる」と理解している。ただし、販売者はそのような物質が使われたオーガニック製品に化学物質を使っていないといった主張をすべきではない。

オーガニック食品の生産にそのような物質を使う量が少ないという主張は許容される可能性が高いが、有機生産がナチュラルだとか天然物しか使っていない、人工物は使っていないといった主張はすべきではない。生産に「認可」された物質が使用された、又は使用された可能性がある場合、オーガニック食品に残留農薬や残留動物用医薬品が存在しないと主張することはできない。また、農薬を使わないことが環境に優しいという主張には、完全ライフサイクルを評価した根拠が必要である。

2. ASA の健康的食環境に関するウェールズ政府の相談への回答

ASA response to Welsh Government consultation on a healthy food environment

Public Affairs paper 01 Sep 2022

<https://www.asa.org.uk/resource/asa-response-to-welsh-government-consultation-on-a-healthy-food-environment.html>

UK 政府によるイングランドでの砂糖・塩・脂肪の多い食品のプロモーションの制限と同じような制限をウェールズ政府が設けた場合の ASA の対応について。

CAP Code に反映させるのは効果的ではない。ただし、マーケティング担当者らは、新しい法的制限によって禁止されたプロモーションを行わなくなるだろう。ASA は法的な禁止を踏まえ、新規則にもとづき対処すべき事案を特定するために寄せられた苦情を評価するだろう。また、マーケティング担当者らが新しい制限を認識し、ASA がどのように対応するのかを理解できるようにするために、ASA は助言やガイダンスを提供する必要があると考えるだろう。

3. ASA のエネルギードリンクに関するウェールズ政府の相談への回答

ASA response to Welsh Government consultation on energy drinks

Public Affairs paper 01 Sep 2022

<https://www.asa.org.uk/resource/asa-response-to-welsh-government-consultation-on-energy-drinks.html>

広告基準では、エネルギードリンクはその他の食品として扱われており、カフェインを高濃度に含む飲料品の制限や禁止に関して特に規制はない。砂糖・塩・脂肪の多い食品に対す

る規制や広告に社会的責任を求める一般的な規則がエナジードリンクには適用されることはある。16才未満にエネルギードリンクの販売を禁止すべきか、という問いに関してはASAには製品の販売を規制する権限はないのでコメントしない。広告に関しては、製品の販売が制限された場合には広告も制限される。

4. ASA 裁定

- 以下、4件のナイトクラブやパブのSNS投稿に関するASA査定：SNS投稿が25才未満の若者に無責任に飲酒を勧めるような内容でありアルコールの広告に関する厳密な規則に違反している。
 - **ASA Ruling on City Clubs (Edinburgh) Ltd t/a The Hive Nightclub & Venue**
07 September 2022
<https://www.asa.org.uk/rulings/city-clubs--edinburgh--ltd-a22-1158774-city-clubs--edinburgh--ltd.html>
 - **ASA Ruling on Montpeliers (Edinburgh) Ltd**
<https://www.asa.org.uk/rulings/montpeliers--edinburgh--ltd-a22-1158777-montpeliers--edinburgh--ltd.html>
 - **ASA Ruling on Signature Pubs Ltd**
<https://www.asa.org.uk/rulings/signature-pubs-ltd-a22-1158775-signature-pubs-ltd.html>
 - **ASA Ruling on Stonegate Pub Company Ltd t/a Craft Union**
<https://www.asa.org.uk/rulings/stonegate-pub-company-ltd-g22-1159905-stonegate-pub-company-ltd.html>

-
- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)
<http://www.bfr.bund.de/>

1. キノコ：間違えると致命的

Mushrooms: confusion can be life-threatening

06.09.2022

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2022/32/mushrooms_confusion_can_be_life_threatening-306771.html

食後に症状が出たら、できれば中毒センターの医師の助言を受ける必要がある。

自ら採取したキノコを食べた後に頻繁に中毒が発生している。毎年、平均して10事例のキノコ中毒が医師からBfRに報告され、連邦中毒センターはキノコについて年間3,000以上の問い合わせに回答している。「ドイツでは食用種と似た毒性の高いキノコが生育している。経験の浅い採取者には危険な可能性がある」とBfRの「危険製品の暴露評価」ユニッ

ト長である Herbert Desel 医師は述べた。人気のある国産の食用キノコは、ハラタケ (*Agaricus campestris*) や食用のベニタケ属などである。採取者はよく食用キノコと毒性の高いタマゴテングタケ (*Amanita phalloides* : 通称 death cap) を間違える。タマゴテングタケに含まれる毒素は肝臓障害を引き起こし、ごく少量を食べただけで致命的となる。子供や高齢者は特にリスクがある。少量の有毒キノコでも健康に重大な損傷を与える可能性がある。キノコ中毒の症状は多種多様である。たいていは (全ての種類のキノコでというわけではないが) 最初は不快感が生じ、腹痛、吐き気、嘔吐を併発する。

自ら採取した有毒又は不適切なキノコの摂取による健康リスクは比較的高い : たびたび有毒キノコは食用キノコと間違われる。タマゴテングタケはドイツで最も毒性の高いキノコである : 典型的なキノコ料理のごく少量でも成人や子供に死を招く可能性がある。全てのキノコ中毒のおよそ 5% は、7 月から 10 月に主に落葉林や公園でも生育するタマゴテングタケの摂取によるものである。BfR は、ドイツの全ての致死的なキノコ中毒の少なくとも 80% はタマゴテングタケによるものだと推定している。

キノコを食べた後に気分が悪くなったら、いつでも医師の助言を受けるか中毒センターに相談した方がよい。

- ドイツの中毒センター一覧 :

<https://www.bfr.bund.de/cm/343/verzeichnis-der-giftinformationszentren.pdf>

いかなる状況でも医師の助言なく治療を行うべきではない : 吐かせるなど害がないと思われる方法でも、嘔吐物が気道の深部に入る場合など、深刻な健康被害になる可能性がある。牛乳は毒の吸収を促進する。

キノコ中毒の認識と医療処置のための重要な助言 :

- キノコ中毒から自身を守るために、全てのキノコが食用だと絶対に確信している場合にのみ、キノコを採取し調理すること。
- キノコアプリは認識を支援できるけれども、鑑別をアプリだけに頼ってはならない。
- 調理する際にキノコは新鮮でなければならない。
- サラダとして楽しむ生食用キノコはたびたび過敏症を起こすことがある。そのため、どのキノコ料理も少なくとも 15 分間以上調理すること。
- キノコ料理は短時間冷蔵庫で保管した後に 2 回目の再加熱ができる。
- 多くの町や地域にはキノコの鑑別に豊富で実績のある知識を持つ助言センターがあり個人の専門家がいる。そのキノコが有毒か食用か不明な場合は、いつでもキノコの助言サービスを求めること。中毒あるいは中毒が疑われる場合のキノコの鑑別を支援できるキノコの専門家の情報はドイツ菌学会のウェブサイトで見ることができる (以下参照)。連邦中毒センターも適切な連絡先を提供している。
- 中毒が起こったら、洗浄したキノコや食事のキノコの残留物—場合によっては嘔吐物—もしばしばキノコの鑑別 (孢子の分析など) に貴重な手がかりを提供することがある。キノコや中毒リスクに関する貴重な情報は「Deutsches Ärzteblatt」の記事 (<https://www.aerzteblatt.de/int/archive/article/216191>) やドイツ菌学会のウェブサイト

(<https://www.dgfm-ev.de>) 上で提供されている。

2. 世界的に連携：消費者の健康保護を強化するための研修

Globally connected: training for greater consumer health protection

05.09.2022

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2022/31/globally_connected_training_for_greater_consumer_health_protection-306881.html

—世界の食品安全は第10回 BfR サマーアカデミーの焦点—

食品リスクの特定と評価—国境を越えて：「専門家から専門家へ」のスローガンの下で BfR サマーアカデミーは10周年を祝う。2022年9月5～16日に400人の国際的な科学者達が食品分野の健康リスクの評価とコミュニケーションについて議論する。メロンやビーフステーキだって、スーパーマーケットの棚に陳列される前にたいていいくつかの国々を渡ってくるのである。サマーアカデミーでは、参加者はどのリスクが関与する可能性があり、どのように規制し、伝えるかについて学ぶ。「私達は世界中の消費者の健康保護に目を向ける必要がある。ネットワークをつなぎアイデアを交換することがさらに重要になる。サマーアカデミーでは、参加者は食品の安全性についての資質を高めることができ、将来さらに協力できるよう互いに学びあうことができる。」と BfR 長官 Andreas Hensel 医学博士は述べた。

* BfR サマーアカデミーの詳細

https://www.bfr-akademie.de/media/wysiwyg/2022/BSA_2022/Flyer_Summer_Academy_2022.pdf

アゼルバイジャン、ホンジュラス、クウェート、スリランカ、タイなど—BfR サマーアカデミーの参加者は世界中の65カ国から来る。今年のイベントは、デジタルで開催される予定だが、科学者達が自ら健康リスク評価を行うだけでなく、自国でこの知識を伝えられるようデザインされている。

第1週目は、リスク評価とリスクコミュニケーションの基本や、ドイツや欧州の法の枠組みについての知見を教わる。健康リスクの程度と重要性を評価し、消費者に配慮した方法で伝えることを目的としている。第2週目は、暴露評価、微生物的・化学的リスク評価、リスクコミュニケーションのワークショップが開催される。

講演者には BfR、ドイツ連邦食糧農業省(BMEL)、チリ食品安全品質庁(ACHIPIA)の専門家が含まれている。

BfR サマーアカデミーは、欧州の健康関連リスク評価システムの世界的な普及や国際基準の統一に寄与している。これは、世界で多くの国が食品や動物の飼料を輸出入していることを背景にしている。食品の多様性が国際的な商品チェーンと共に絶えず増加しているのと同時に、それによる科学的評価や潜在的な健康リスクのコミュニケーションの必要性も増加している。そのため、質の高い欧州基準、規制並びに食品の品質、安全性及び衛生の知見は特に重要である。

BfR サマーアカデミーは 2012 年から開催されている。それ以降、70 カ国以上から 800 人以上の科学者がこの研修に参加している。

● オランダ RIVM (国立公衆衛生環境研究所 : National Institute for Public Health and the Environment)

<http://www.rivm.nl/en/>

1. ドルドレヒト、パペンドレヒト、スリードレヒト、モーレンランデンの自治体の菜園からの菜園作物における PFAS のリスク評価

Risicobeoordeling van PFAS in moestuingewassen uit moestuinen in de gemeenten Dordrecht, Papendrecht, Sliedrecht en Molenlanden

2022-09-05

<https://www.rivm.nl/publicaties/risicobeoordeling-pfas-moestuingewassen-dordrecht-papendrecht-sliedrecht-molenlanden>

(本文オランダ語)

パー及びポリフルオロアルキル化合物 (PFAS) を排出している、あるいは過去に PFAS を排出していた化学工場近傍の菜園の農作物摂取による PFAS 暴露研究。RIVM は、4 自治体にある化学工場から半径 15 km 以内の 9 グループの区画から野菜や果物を摂取した場合、住民がどの程度の PFAS を摂取しているかの調査を実施した。この研究から、PFAS 摂取量について以下の 3 つの知見が得られた :

- ① 化学工場北東 1 km 以内の菜園の作物からの PFAS 摂取量は多すぎるので、食べないように助言する。
- ② 工場から南西 5-10 km 及び北東 15 km の一部の菜園の作物からでは、PFAS 摂取量は高すぎることはないため、これらを食べ続けることができる。
- ③ 工場から北西、北東、東に 1-10 km、南西に 2.5 km 離れた 6 つの区画の作物を摂取したグループについては、高すぎることはないが他よりは高く、これらの作物を食べる人々は店舗から購入したものを含めて多様なものを食べるよう助言する。オランダの人々は他の食品や飲料水からいわゆる健康影響に基づくガイダンス値より多くの PFAS に既に暴露されているので、このように多様な野菜や果物を摂取することは重要である。

2. *Salvia divinorum* (を含むハーブ製品) のリスク評価

Risk assessment of (herbal preparations containing) *Salvia divinorum*

07-09-2022

<https://www.rivm.nl/publicaties/risk-assessment-of-herbal-preparations-containing->

salvia-divinorum

オランダでは（オンライン）スマートショップがハーブ *Salvia divinorum* の乾燥葉や抽出物を販売している。*Salvia divinorum* を含む製品は向精神作用のために使われている。RIVM はそれらがヒト健康に有害かどうか評価した。この評価で、これら製品を使う人は幻覚、落ち着きのなさ、錯乱、心拍数の増加、血圧上昇、精神病に苦しむ可能性があることがわかった。これらの健康影響は推奨されている量でもおこる。RIVM は消費者に *Salvia divinorum*（を含むハーブ製品）を使用しないよう助言する。また保健福祉スポーツ省に販売の制限や禁止を検討することを助言する。

Salvia divinorum を含む製品は、乾燥した葉や抽出物として販売されている。ほとんどの人が製品を吸入して使用する。葉を噛む、あるいはお茶にする場合もある。有効成分はサルビノリン A で、どのくらいの人が使っているのかはわからない。

* 訳注：*Salvia divinorum*（サルビア ディビノラム）はメキシコ産のシソ科アキギリ属の植物である。日本では、「サルビア ディビノラム（直ちに人の身体に使用可能な形状のものに限る）」とその幻覚成分「サルビノリン A」が、医薬品医療機器法のもと指定薬物に指定されている。

3. 地表水の PFAS リスク限度値. EFSA の健康影響に基づくガイダンス値から導出した地表水濃度基準

Risk limits for PFAS in surface water. Derivation of surface water concentration limits based on EFSA's healthbased limit value

2022-09-08

<https://www.rivm.nl/publicaties/risicogrenzen-voor-pfas-in-oppervlaktewater-doorvertaling-van-gezondheidskundige>

（本文オランダ語）

EFSA が 2020 年に PFAS に対し健康影響に基づくガイダンス値（HBGV）を導出したため、RIVM は地表水の新しい PFAS リスク限度値を導出した。

PFOA : 0.3 ng (ナノグラム) /L

PFOS : 7 pg (ピコグラム) /L

HFPO-DA (GenX) : 10 ng/L

これらの値は現在の水質基準よりはるかに低いものとなっている。これは EFSA がこれらの物質はこれまで知られていたよりもずっと毒性が高いと判断したためである。他の PFAS については、複数の PFAS に対して合計でリスク評価できるよう計算方法を開発した。

新しいリスク限度値は助言値である。この報告に一部基づき、インフラ・水管理省が水質基準を改訂するかどうかを決める場合がある。

●アイルランド食品安全局（FSAI：Food Safety Authority of Ireland）

<http://www.fsai.ie/index.asp>

1. 次回の **Breakfast Bite**：保存可能期間

Upcoming Breakfast Bite: Shelf-life

Tuesday, 30 August 2022

https://www.fsai.ie/BreakfastB_ShelfLife_30822.aspx

無料のオンラインウェビナー。食品事業者が製造する食品の保存可能期間（Shelf-life）を安全に設定し、検証する方法について助言する。ウェビナーは、自社で製造する食品の保存可能期限を設定し、検証する責任を有する食品事業者に適しているが、この責任は、場合によっては、2次製造業者（共同包装業者）、再包装業者、食品ケータリング業者、食品小売店などにも及ぶことがある。

●米国食品医薬品局（FDA：Food and Drug Administration）<http://www.fda.gov/>

1. 違法な健康製品に対処するための政府全体によるアプローチ

Using A Whole-Of-Governments Approach to Combating Illicit Health Products

09/01/2022

<https://www.fda.gov/news-events/fda-voices/using-whole-governments-approach-combating-illicit-health-products>

政府全体のアプローチは、違法な健康製品の取引から公衆衛生を守るための最善の方法であり、FDAはそのアプローチを提唱する。

国際郵便施設に持ち込まれる不正製品の種類と範囲は多岐にわたる。がんや高血圧、糖尿病などの慢性疾患を治療するための医薬品、処方医療機器、動物用医薬品など、中には誤表示のものや偽造品もある。これらの事例の多くで、不正製品は、通常、税関を通らずに中間目的地としてまず欧州連合（EU）内の国に出荷された後、米国市場に流入する（トランシップと呼ばれる行為）。FDAの犯罪捜査部（OCI）が行った一連の捜査は、この問題に対処する最善の方法は、FDAの他の部署、他の米国政府機関、及び他の国の当局者に協力を求めることによって、広い網を張ることであることを実証している。

2. FDAは特定の種類の表示を含む動物用食品の規則に関するバーチャルリスニングセッションを発表する

FDA Announces Virtual Listening Session on the Regulation of Animal Foods with Certain Types of Claims

08/30/2022

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/cvm-updates/fda-announces-virtual-listening-session-regulation-animal-foods-certain-types-claims>

米国 FDA の動物用医薬品センター (CVM) は、環境ベネフィットの表示 (温室効果ガスの削減など)、製造表示 (成長促進、飼料効率など)、動物のマイクロバイオーームへの影響に関する表示など特定の種類の表示を伴う動物用食品の規則に関するバーチャル公開ヒアリングセッションの登録を開始する。

3. 消費者向け情報

● 子供のための健康的な朝食：大切なのはバランスである

Healthy Breakfasts for Kids: It's All About Balance

09/01/2022

<https://www.fda.gov/consumers/consumer-updates/healthy-breakfasts-kids-its-all-about-balance>

米国 FDA は子供たちに健康的な朝食を提供するための、簡単なヒントを 7 つ提供する：

1. 買い物の際には、栄養成分表示や成分表示を活用する
2. いつもの朝食に固執しない
3. 子供が好きな食事を与える
4. 健康的なトレードオフをする
5. 成長と活動レベルを考慮する
6. 急いでいる時でも、健康的な選択肢を与える
7. 前の晩に準備する

● 安全でないレベルの放射線を出す紫外線 (UV) ワンドに注意すること

Beware of Ultraviolet (UV) Wands That Give Off Unsafe Levels of Radiation

09/01/2022

<https://www.fda.gov/consumers/consumer-updates/beware-ultraviolet-uv-wands-give-unsafe-levels-radiation>

特定の紫外線ワンドは、数秒で怪我をする可能性があり、使用しないよう消費者に注意喚起し、安全性情報を以下に発表している。

- Do Not Use Ultraviolet (UV) Wands That Give Off Unsafe Levels of Radiation: FDA Safety Communication

July 20, 2022

<https://www.fda.gov/medical-devices/safety-communications/do-not-use-ultraviolet-uv-wands-give-unsafe-levels-radiation-fda-safety-communication>

*内容は以下を参照のこと

食品安全情報 (化学物質) No. 17/ 2022 (2022. 08. 17)

安全でないレベルの放射線を出す紫外線（UV）ワンドを使用しないこと：FDA 安全性
コミュニケーション

<http://www.nihs.gov/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202217c.pdf>

- **FDA は両親及び保育者に、乳児に Mother's Touch Formula を購入したり与えたりしないよう助言する**

FDA Advises Parents and Caregivers Not to Buy or Give Mother's Touch Formula to Infants

September 6, 2022

<https://www.fda.gov/food/alerts-advisories-safety-information/fda-advises-parents-and-caregivers-not-buy-or-give-mothers-touch-formula-infants>

この製品は、FDA に必要な市販前届出をせずに乳児用調製粉乳として販売されており、7つの栄養素について栄養要件を満たしていない。（製品写真あり）

4. 警告文書

- **The Elderberry Fairy & Co., LLC**

AUGUST 15, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/elderberry-fairy-co-llc-622859-08152022>

未承認の新規医薬品、不正表示の問題。エルダーベリー製品の問題。

- **Nutritional Laboratories International, Inc. DBA Elite One Source Nutritional Services, Inc.**

AUGUST 05, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/nutritional-laboratories-international-inc-dba-elite-one-source-nutritional-services-inc-620224>

ダイエットサプリメントの CGMP、不正表示の問題。

- **Leaf of Life LLC**

AUGUST 04, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/leaf-life-llc-619191-08042022>

未承認の新規医薬品、不正表示の問題。コカリーフパウダー製品を含む。

-
- 米国環境保護庁（EPA : Environmental Protection Agency）<http://www.epa.gov/>

1. EPA は人々の健康を守るためにある種の PFAS 化合物をスーパーファンド法に基づく有害物質に指定

EPA Proposes Designating Certain PFAS Chemicals as Hazardous Substances Under Superfund to Protect People's Health

August 26, 2022

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-proposes-designating-certain-pfas-chemicals-hazardous-substances-under-superfund>

EPA は、Regan 長官による PFAS 戦略計画の一環として、PFOA と PFAS を CERCLA (包括的環境対処・補償・責任法、通称スーパーファンド法) で有害物質として指定することを提案する。この規則が制定されると、これらの有害な化学物質の放出について報告義務が生じて透明性が高まり、汚染者に汚染浄化の責任を負わせることができるようになる。パブリックコメントを 60 日間受け付ける。

- PFAS 戦略計画：2021-2024 年における EPA の行動約束

PFAS Strategic Roadmap: EPA's Commitments to Action 2021-2024

<https://www.epa.gov/pfas/pfas-strategic-roadmap-epas-commitments-action-2021-2024>

2. EPA は農薬製品に認可されているある種の PFAS の使用中止を提案

EPA Proposes to Stop Authorized Use of Certain PFAS in Pesticide Products

September 1, 2022

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-proposes-stop-authorized-use-certain-pfas-pesticide-products>

農薬製品中の不活性成分として現在使用が認められているもののうち、12 の PFAS を排除することを提案；

- 2-クロロ-1,1,1,2-テトラフルオロエタン (CAS Reg. No. 2837-89-0);
- α -(シクロヘキシルメチル)- ω -ヒドロポリ (ジフルオロメチレン) (CAS Reg. No. 65530-85-0);
- ジクロロテトラフルオロエタン(CAS Reg. No. 1320-37-2);
- エタン, 1,1,1,2,2-ペンタフルオロ- (CAS Reg. No. 354-33-6);
- ヘキサフルオロプロペン, テトラフルオロエチレンとのポリマー(CAS Reg. No. 25067-11-2);
- ポリテトラフルオロエチレン処理したモンモリロナイト型クレー(No CAS Reg. No.);
- ポリ(ジフルオロメチレン), α -クロロ- ω -(1-クロロ-1-フルオロエチル) (CAS Reg. No. 131324-06-6);
- ポリ(ジフルオロメチレン), α -クロロ- ω -(2,2-ジクロロ-1,1,2-トリフルオロエチル)- (CAS Reg. No. 79070-11-4);
- ポリ(ジフルオロメチレン), α -(2,2-ジクロロ-2-フルオロエチル)-, ω -ヒドロ- (CAS No. 163440-89-9);

- ポリ(ジフルオロメチレン), α -フルオロ- ω -[2-[(2-メチル-1-オキシ 2- プロペニル)オキシ]エチル]- (CAS Reg. No. 65530-66-7);
 - ポリ (オキシ-1,2-エタンジイル), α -ヒドロ- ω -ヒドロキシ-, α -フルオロ- ω -(2-ヒドロキシエチル)ポリ (ジフルオロメチレン)とのエーテル (1:1) (CAS Reg. No. 65545-80-4);
 - プロパン, 1,1,1,2,3,3,3-ヘプタフルオロ- (CAS Reg. No. 431-89-0).
- 連邦官報公告後、EPA は本提案に対するパブリックコメントを 30 日間受け付ける。

3. EPA と日本環境省は二国間環境協力継続について共同声明を発表

EPA and The Ministry of the Environment of Japan Release Joint Statement on Continued Bilateral Environmental Cooperation

September 2, 2022

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-and-ministry-environment-japan-release-joint-statement-continued-bilateral>

9月2日、EPAのMichael S. Regan長官と西村明宏環境大臣が東京で会談し、ハイレベル二国間協議を行った。両大臣は、バイデン大統領のインフレ抑制法による歴史的な気候変動投資などの成果や、環境保護に関する国際・地域・二国間協力の継続のための優先事項について協議した。主なテーマは以下の通り：

- 気候変動と脱炭素
- 海洋ゴミと循環型経済
- 化学物質管理
水銀に関する水俣条約の効果的な実施に向けた協力、世界水銀パートナーシップへの参加、アジア太平洋地域における水銀監視能力の強化、PFASを含む化学物質の管理と政策、など。
- 環境教育と若者

* 環境省からの関連情報

西村環境大臣とリーガン米国環境保護庁長官による 日米環境政策対話の結果について
2022年09月02日

https://www.env.go.jp/press/press_00552.html

4. EPA はコロラド州 Lakewood でエチレンオキシドの更新リスクを発表する地域会議を行う

EPA community meeting to present update on ethylene oxide risk in Lakewood, Colorado: September 22

September 6, 2022

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-community-meeting-present-update-ethylene-oxide-risk-lakewood-colorado-september>

米国 EPA は、コロラド州レイクウッドにあるテルモ BCT 滅菌施設付近のエチレンオキ

シド (EtO) による健康リスクに関する情報を共有するために、9月22日(木)午後6時半からオンライン地域会議を開催する。EPAは、同施設のすぐ近くに住む人々の生涯リスクレベルに関する新しい情報を提示し、地域住民やその他の関係者から懸念事項を聴取する予定である。

EPAは最近、テルモ BCT 消毒施設を含む全米の滅菌施設に対し、大気品質のモデリングとリスク評価を完了した。EPAの解析では施設付近の大気は短期的健康ベンチマークを超過しないが、生涯暴露は長期健康影響につながる可能性があることを示唆する。EPAのモデリングはこれまでの大気中モニタリングデータとリスク評価に基づく。

追加情報

- 有害空気汚染物質：エチレンオキシド

Hazardous Air Pollutants: Ethylene Oxide (EtO)

<https://www.epa.gov/hazardous-air-pollutants-ethylene-oxide>

EtOについて今わかっていること、EPAの活動、情報の取得先の案内、ウェビナー内容、ファクトシート、FAQ、など。

-
- 米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)

<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. ホワイトハウス飢餓、栄養、健康に関する会議—もうすぐ！

White House Conference on Hunger, Nutrition, and Health – It is almost here!

Posted by Stacy Dean, Deputy Undersecretary for Food, Nutrition, and Consumer Services in Food and Nutrition

Sep 06, 2022

<https://www.usda.gov/media/blog/2022/09/06/white-house-conference-hunger-nutrition-and-health-it-almost-here>

9月28日にホワイトハウス飢餓、栄養、健康に関する会議が行われる—この種のものは50年以上ぶりである。1969年の最初の会議の直前に、食品と栄養サービス (FNS) が設立され、さらに現在の補助栄養支援プログラム (SNAP) の拡大、後に女性・乳幼児・子供のための特別栄養補助食品プログラム (WIC) となる試験的プログラムの開始、学校朝食計画の承認、初めてのアメリカ人のための食事ガイドラインなど、USDAに重要な影響を与えた。

ホワイトハウス会議では、FNSを含むすべての関係者が、飢餓に対処し、栄養と食事に関連する健康を改善するために、大胆な行動を取り続けるよう呼びかけるだろう。FNSでは、1969年をUSDAと飢餓に直面していた多くのアメリカ人にとっての変革の年と振り返り、未来の世代のために、2022年のホワイトハウス会議を最大化するよう取り組む。

● White House Conference on Hunger, Nutrition, and Health

<https://health.gov/our-work/nutrition-physical-activity/white-house-conference-hunger-nutrition-and-health>

目的：糖尿病や肥満、高血圧のような食事関連疾患を経験するアメリカ人が減るように、2030年までに飢餓を無くし健康的食生活と運動を増やすこと。

会議の5つの柱

1. 食品へのアクセスと入手可能性の向上
2. 栄養と健康を統合
3. 全ての消費者の健康的選択のエンパワーメント
4. 全ての人の運動をサポート
5. 栄養と食料安全保障研究を強化

2. APHIS は最初の規制状態レビュー回答を発表：Norfolk 植物科学の紫トマト

APHIS Issues First Regulatory Status Review Response: Norfolk Plant Sciences' Purple Tomato

Sep 6, 2022

https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/sa_by_date/sa-2022/purple-tomato

米国農務省動物衛生検査局（USDA APHIS）は Norfolk 植物科学のトマトをレビューした。このトマトは色が変わり栄養が強化されたもので、他の栽培品種のトマトと比較して植物病虫害リスク増加とはならず、7 CFR part 340 の規制対象にはならないと判断した。つまり植物病虫害のリスクについては、米国内で安全に栽培し交配に使用できる。

● NIH（米国国立衛生研究所）のダイエタリーサプリメント局（ODS：Office of Dietary Supplements） <http://ods.od.nih.gov/>

1. スcoop-2022 年秋

The Scoop - Fall 2022

September 7, 2022

<https://content.govdelivery.com/accounts/USNIHODS/bulletins/32b8bd0>

ダイエタリーサプリメントに関する Q&A: カルシウムを十分得るには牛乳をどのくらい飲む必要があるか、ニンジンからβ-カロテンをたくさん摂ってもサプリメントと違って肺がんリスクにはならない、米国予防医学専門委員会（USPSTF）のマルチビタミン、心血管疾患及びがんに関する報告書について。

● 米国連邦取引委員会 (FTC : Federal Trade Commission)

<http://www.ftc.gov/index.shtml>

1. FTC の報告書はフレーバー付き使い捨て電子タバコとメンソール電子タバコカートリッジの販売が劇的に急増したことを強調する

FTC Report Highlights Dramatic Surge in Sale of Flavored Disposable E-Cigarettes and Menthol E-Cigarette Cartridges

August 31, 2022

<https://www.ftc.gov/news-events/news/press-releases/2022/08/ftc-report-highlights-dramatic-surge-sale-flavored-disposable-e-cigarettes-menthol-e-cigarette>

米国連邦取引委員会 (FTC) が発表した全米の電子タバコの販売及び広告についての 2 回目の報告書によると、2020 年にフレーバー付き使い捨て電子タバコとメンソール電子タバコカートリッジの販売の劇的な増加が示されている。この大幅な増加は、若い喫煙者に人気のフレーバー付きカートリッジを政府が禁止した時期と重なり、若者の電子タバコの使用が減少するのではなく、代替品にシフトしたことを示唆する。また、青少年の喫煙率上昇につながる電子タバコの無料配布や割引が過去最高を記録したことも報告された。

昨年、FTC は業界の調査を拡大し、電子タバコについて初の報告書を発表した。今年の電子タバコ報告書は、米国食品医薬品局 (FDA) がメンソール以外のフレーバー付き電子タバコカートリッジの販売を禁止する施行方針を発表した 2019 年と 2020 年の販売及び広告データを対象とする。全体として、2015 年の 3 億 420 万ドルから 2018 年には 20 億 4600 万ドルに増加していた電子タバコの総売上は、2019 年には 27 億 300 万ドルに増加したが、その後 2020 年には 22 億 4000 万ドルに減少していた。報告書の主な調査結果は以下：

- ・ フレーバー付きの使い捨て電子タバコへの大幅な移行：公開資料によると、FDA の 2020 年政策の対象外である使い捨て電子タバコの販売が大幅に増加し、2020 年 12 月には「その他」のフレーバー付き使い捨て製品が全販売品の 77.6% を占めたことが判明した。FTC のデータでは、使い捨ての販売数の増加は見られなかったが、データは使い捨て電子タバコの市場の正確な姿を表していない可能性が高い。
- ・ メンソールカートリッジの売上が大幅に増加：同様に、FDA が禁止していない残りのフレーバーカートリッジのうち、メンソールの販売が大幅に増加し、2020 年には全カートリッジの 63.5% に達することが報告された。
- ・ 電子タバコの割引は過去最高：このデータから、電子タバコの割引は 2019 年に過去最高の 1 億 8230 万ドルに達し、2020 年には若干減少したが、こうした割引は依然として電子タバコ製造業者による広告費の最大の 카테고리 であることが明らかになった。
- ・ 電子タバコのほぼ無料サンプルの倍増：2019-20 年に収集されたデータによると、無料及び大幅に割引された電子タバコの試供品提供と販売に関する支出は、わずか 2 年間で 2 倍以上に増加し、2020 年には 2 番目に大きな支出カテゴリとなった。これは、

2016年にFDAがタバコ製品の試供品提供を禁止した後、一部の企業が禁止を回避しようと、1ドル（又はそれ以下）で電子タバコを提供し始めたために起きた。

FTCの報告書は、有害な若者の電子タバコ使用を制限するFDAの取り組みの影響を示す重要な市場理解と、若者のニコチン中毒に対しFDAが取るべき追加措置の計画を提供する。フレーバー付き電子タバコは依然として若者にとって魅力的で、ニコチン中毒や人体に有害影響を及ぼす深刻な可能性を高めているという重大なエビデンスがある。本報告書では、ある種の電子タバコのために特定のフレーバーを部分的に禁止することは、電子タバコの使用を通じた青少年のニコチン中毒の減少を達成する上で成功しそうにないことを示す。

また、FTCは、電子タバコの割引行為についても懸念する。消費者はタバコ製品の価格変更明確に反応し、若年層は高齢者よりも強く反応することが研究で示されている。米国公衆衛生局長官は、価格割引が若者のタバコ使用を増加させる結果になったと結論付ける。FTCは、電子タバコの価格における同様の割引も問題視している。電子タバコの無料サンプルを制限するFDAの取り組みは、電子タバコ製造業者による記録的な割引やほぼ無料の電子タバコ製品を提供することで禁止を回避しているようである。

● カナダ・オンタリオ州ヨーク地域 (York Region)

<https://www.york.ca/>

1. ヨーク地域公衆衛生局は食品中の毒素の可能性を調査している

YORK REGION PUBLIC HEALTH INVESTIGATING POTENTIAL TOXIN IN FOOD

September 01, 2022

<https://www.york.ca/newsroom/york-region-public-health-investigating-potential-toxin-food>

(2022年9月1日午後5時更新)

- Mr. Rightブランドの *Keampferia Galanga* (ガランガル、インドネシアで食材や医薬品として用いられているショウガ科の植物の地下茎) 粉末が最近の住民のトリカブト毒素陽性中毒に関与していることを確認した。当該製品の包装にはコードAT154と記載されている。
- 他のロットのガランガル (コード119) は検査の結果陰性であった。
- 引き続き、包装のコード番号に関わらず、すべてのMr. Rightブランドのカランガルを破棄することを推奨する。
- 販売元は当該製品の自主的リコールを実施している。

(製品写真あり)

-
- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局
(FSANZ : Food Standards Australia New Zealand)
<http://www.foodstandards.gov.au/>

1. 食品基準ニュース

Food Standards News

August 2022

<https://mailchi.mp/0a49f70860ad/food-standard-news-1300436?e=21527ddb09>

- 食品閣僚会合
- FSANZ の関係者調査
- 世界的メガトレンドに関する CSIRO 報告書
- 意見募集

2. 食品基準通知

● Notification Circular 213-22

1 September 2022

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notification%20Circular%20213-22.aspx>

新規申請と提案

- ハリナシミツバチの蜂蜜
オーストラリア固有種のハリナシミツバチの蜂蜜が含まれるように蜂蜜の定義を改訂する提案

改訂 No.211

- 加工助剤としてのセチルピリジニウム塩化物、食品基準の分類見直し等

● Notification Circular 214-22

8 September 2022

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notification%20Circular%20214-22.aspx>

改訂 No.212

- MRL のバリエーション
Codex 準拠で牛の脂肪・腎臓・肝臓・筋肉中ラクトパン MRL が設定されている

-
- オーストラリア TGA (TGA : Therapeutic Goods Administration)

<http://www.tga.health.gov.au/index.htm>

1. 安全性助言：ペニソールカプセル（アーユルベーダ医薬品）

Safety Advisory: Penisole capsules (ayurvedic medicine)

6 September 2022

<https://www.tga.gov.au/news/safety-alerts/safety-advisory-penisole-capsules-ayurvedic-medicine>

オーストラリア TGA は、ペニソールという名のアーユルベーダ医薬品から高濃度の鉛及びその他の重金属が検出されたとして、助言を受けた。ペニソールには、*Naga*（鉛）、*Vanga*（スズ）、*Yahada*（亜鉛）を含む *Trivang Bhasma*（別名：*Trivanga Bhasma*）というアーユルベーダ処方が含まれているとの表示がある。

ビクトリア州政府は、ペニソールから高濃度の鉛が検出されたことを受け、消費者に注意喚起を発表した。ペニソールを服用すると、臓器障害や死亡を含む長期的な健康影響を引き起こす鉛中毒となる可能性がある。妊娠中の女性及び子供は、さらにリスクが高い。消費者はペニソールカプセルの使用を即中止し、すでに服用した場合は医療従事者又は中毒情報センターに連絡すること。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 20/ 2020（2020. 09. 30）

【hccc】. 医療苦情法 s94A による警告－アーユルベーダ医薬品の重金属濃度について
<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2020/foodinfo202020c.pdf>

● ニュージーランド第一次産業省（MPI：Ministry of Primary Industry）

<http://www.mpi.govt.nz/>

1. プレスリリース

● チーズの製造副産物が糖尿病患者にとってのゲームチェンジャーになる可能性

Cheesemaking waste product potential gamechanger for diabetes sufferers

06 September 2022

<https://www.mpi.govt.nz/news/media-releases/cheesemaking-waste-product-potential-gamechanger-for-diabetes-sufferers/>

NZ の企業がチーズの副産物を使った 2 型糖尿病患者の薬の開発を目指している。WheyTech Bionics NZ は、乳清濾過生成物を抗糖尿病活性のある甘味料に加工する技術開発を目指す 2 年間のプロジェクトで MPI と協力する。

既存のドイツの特許は、乳清中の高濃度ブドウ糖から抗糖尿病作用のある糖を作れることを示している。WheyTech Bionics NZ はこの特許を使用して、NZ の乳清で同様のもの

を製造することを目指す。

2. 警告

● 北島西岸の貝類に関する公衆衛生警告の拡大

Public health warning for shellfish extended for West Coast, North Island

02 September 2022

<https://www.mpi.govt.nz/news/media-releases/public-health-warning-for-shellfish-extended-for-west-coast-north-island/>

MPI（ニュージーランド第一次産業省）は北島西岸の貝の公衆衛生警告を Taranaki 地域まで拡大した。麻痺性貝毒のレベルが MPI 設定の安全基準値 0.8 mg/kg を上回った。

* 関連情報：食品安全情報（化学物質）No. 18/ 2022（2022. 08. 31）

【MPI】北島西岸 Kawhia Harbour 及び Aotea Harbour 地域における貝類に関する公衆衛生警告

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202218c.pdf>

● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載していません。

1. 食品事故報告

● イタリア Mantua Surgelati 社の Consum ブランドのピザを食べた後、スペインで 2 人が冷凍ツナピザに含まれるヒスタミンにより体調を崩したとメディアが報じた

Media reported that two people fell ill in Spain due to histamine in the frozen tuna pizza after consuming the Consum brand pizzas made in Italy by Mantua Surgelati.

29 August 2022

https://www.cfs.gov.hk/english/rc/subject/files/20220829_2.pdf

● Rappel Conso of France—フランス Carrefour BIO ブランドの Pain d'é pices Seigle et Miel（ジンジャーブレッド ライ&ハニー）のアルカロイドによるリコール通知

Rappel Conso of France – A notice regarding a recall of Carrefour BIO brand of Pain d'é pices Seigle et Miel in France due to the presence of alkaloids.

30 August 2022

https://www.cfs.gov.hk/english/rc/subject/files/20220830_1.pdf

<上記 2 件に関して>

食品安全センター (CFS) は、対象製品が香港に輸入されているかどうかを調査しており、関連当局に詳細な情報を求めている。予備調査では、該当製品の現地での販売や輸入は確認されていないが、オンライン又は海外旅行で入手した可能性は否定できない。消費者は当該製品を破棄し、摂取しないように。

2. 違反情報

- 包装済み乾燥ポルチーニ茸のサンプルで重金属汚染が基準値を超える

Metallic contaminant exceeds legal limit in prepackaged dried porcini samples

Monday, August 30, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20220830_9732.html

フランス産/中国産包装済み乾燥ポルチーニ茸のサンプルから、それぞれ基準値 0.1 ppm を超える 0.20 ppm、0.16 ppm の水銀が検出された。

- アメリカイチョウガニのサンプルに基準値超過の金属汚染

Metal contamination exceeds legal limit in Dungeness Crab sample

Thursday, September 1, 2022

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20220901_9737.html

カナダ産アメリカイチョウガニのサンプルからカドミウムが基準値 2 ppm を超える 6.7 ppm 検出された。

- 包装済みマーガリンのサンプルが食品医薬品規則に違反

Prepackaged Margarine sample not in compliance with Food and Drugs (Composition and Labelling) Regulations

September, 1 2022 (Thursday)

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20220901_9738.html

ニュージーランド産マーガリンのサンプルにおいて水分含有量が 16%以上の 28 g/100 g であった。

- 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<http://www.mfds.go.kr/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査管理課

- 2022.8.26~2022.9.1

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43278

- 2022.8.19~2022.8.25

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43277

2. 食薬処、安心な食事とバイオデジタルヘルス革新成長支援などのための来年度予算案 6,694 億ウォン編成

企画財政担当官 2022-08-31

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46644

(食品分野のみ)

食品医薬品安全処は、2023 年度予算案を今年度予算 (6,640 億ウォン) に対し 54 億ウォン (0.8%) 増加した合計 6,694 億ウォンで編成した。来年度の予算案は新政府の国政課題である「食の安全管理強化とバイオヘルス革新成長支援」の確実な履行と、食医薬新産業分野の未来に備え安全基盤の構築に重点を置いた。政府の健全財政基調により来年度の予算案規模が大幅に増加することはなかったが、国政課題の推進と国民の安全のために必要なことを中心に予算案を編成した。

2023 年度食薬処予算案の主な内容は、①安心な食事と健康的な食生活環境づくり、②バイオヘルス安全管理・革新成長基盤の拡充、③必須医薬品の安定的な供給体系の構築、④未来安全規制先導のための規制科学研究拡大など 4 分野である。

① 安心な食事と健康的な食生活環境づくり

- 高齢者・障害者に対する給食の栄養・衛生管理を行う「社会福祉給食管理支援センター」を 44 ヶ所まで拡大し、栄養士の雇用義務のない小規模な高齢者・障害者社会福祉施設で管理がより体系的に行える食生活環境を作る。

* 社会福祉給食管理支援センター：('22) 19 ヶ所/12 億ウォン→ ('23) 44 ヶ所/23 億ウォン

- 子供の栄養・衛生管理のために全国 236 ヶ所の給食管理支援センターを運営し、全国の子供の食生活安全と栄養レベル評価のために「食生活安全指数」を調査する。

- 人体に影響を及ぼす有害物質を体系的に管理するために、糖尿病患者などの脆弱集団の食品摂取量を調査し、衛生用品など使用頻度の多い人体適用製品の有害物質暴露評価を行い有害物質のリスクを総合的に評価する。

- 畜産・水産物に使用される動物用医薬品の許容物質リスト管理制度 (PLS) * 施行などに備えて、事前に設定を完了しなければならない残留基準を整備し、残留動物用医薬品の検査拡大のために標準品を支援する。

* PLS (Positive List System、許容リスト管理制度)：残留許容基準が設定された農薬以外は一律基準 (0.01 mg/kg) で管理する制度 ('24.1.1.施行)

- 有害輸入食品に対する安全管理強化のために海外直輸入食品に対する安全性検査を拡大*し、輸入水産物など輸入食品放射能検査装置**を補強する。

* 海外直輸入食品の不定物質検査 (1400 件→1600 件)

** ガンマ新型装置 (2 台) 及びアルファ・ベータ装置 (4 台) など放射能検査装置補強

- 他にもビッグデータ技術を適用した評価技術開発のデモ事例として、健康機能食品の

適正摂取予測可能な評価技術開発（R&D）研究などを推進する。

安心な食事と健康的な食生活環境づくり：合計 2,319 億ウォン

- 社会福祉給食支援及び管理強化：（'22）12→（'23 案）23 億ウォン
- ※（国政課題）68-2. 食生活健康圏-K-給食衛生栄養管理体系を再設計
- 子供食材の安全管理強化：（'22）584→（'23 案）592 億ウォン
- ※（国政課題）68-2. 食生活健康圏-K-給食衛生栄養管理体系を再設計
- 人体適用製品のリスク評価：（'22）11→（'23 案）16 億ウォン
- ※（国政課題）68-3. 健康リスク要因統合管理-人体安全中心に有害物質総量評価管理体系を確立
- 食品基準規格設定評価：（'22）67→（'23 案）99 億ウォン
- ※（国政課題）68-1. 食品の安全性-動物用医薬品残留検査基準（PLS）の強化
- 輸入食品及び放射能安全管理：（'22）87→（'23 案）87 億ウォン
- ※（国政課題）68-1. 食品安全管理-輸入食品放射能検査・海外直輸入管理強化
- スマート食品安全管理（R&D、ビッグデータベースの安全管理技術開発研究）：新規（'23 案）8 億ウォン

食薬処は 2023 年の予算案が国会審議過程を経て確定すれば「食の安全管理強化とバイオヘルス革新成長支援」に最善を尽くし、国民の安全と健康を守っていく。

<添付> 2023 年度食薬処予算案全体の様子

3. 効率的な HACCP 管理のためにハザード分析情報の提供を拡張

食品安全認証課 2022-08-29

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46637

食品医薬品安全処は食品安全管理基準（以下、HACCP）適用業者が苦勞しているハザード分析*に関する資料を提供し、効率的な HACCP 運営を可能にする「食品原料別ハザード分析情報集」を 8 月 29 日改訂・発刊する。

* HACCP 適用業者は試験検査などを通じて情報を収集し、ハザード分析（ハザードの同定、深刻度・発生可能性評価など）をしなければならず、それに応じて重要管理点を決定

今回の情報集の改訂は、より多くの食品業者が情報集内の分析資料を参考にしてハザード分析（ハザードの同定、発生可能性評価）を容易に行えるように、ハザード分析情報提供対象品目を拡大**するために用意された。

* HACCP 適用業者が各原料別試験・検査資料など直接試験・検査して収集した情報を情報集内の資料にも代替可能

**（既存）菓子類、餅類、高麗人参・紅参飲料、白菜キムチの 4 品目のハザード分析資料収録→（改正）パン類、麺類、果物飲料、その他水産物加工品 4 品目のハザード分析資料追加収録

主な改正内容は、①HACCP 義務適用対象であるパン類など 4 品目を製造する業者で、主に使用する原材料の生物的・化学的・物理的ハザードについて、食品安全公共データ**を活

用して分析した資料を追加、②最新情報を反映したハザード発生の可能性評価資料の現行化などである。

- ① パン類など 4 品目の、▲原材料別ハザード分析 (Hazard Analysis) の内容、▲国内・外の基準・規格、▲ハザードに対する国内試験・検査結果分析、▲国内・外の食中毒発生事例などのハザード情報などを追加した。
 - 国内・外の食品ハザード情報や試験・検査結果など約 480 万件の公共データを活用し、原料別ハザードの同定項目と発生の可能性を分析した。
 - また、この分析資料に対して学界・産業界など専門家の諮問と分析情報提供対象業者 (パン類など 4 品目製造業者) の意見を取りまとめ客観性と受容性を高めた。
- ② また、国内・外ハザード情報、試験・検査結果など最新情報事項を反映して、既に提供した菓子類など 4 品目の原材料別ハザード分析資料のうち発生可能性評価資料を現行化した。

<添付>

- 1.ハザード分析情報提供対象食品原料
- 2.「食品原料別ハザード分析情報集」構成
- 3.ハザードの発生可能性評価資料の変更内容
- 4.各部門別担当者、連絡先

4. 畜産物に使用する動物用医薬品のリスク評価安全情報を公開

残留物質課 2022-08-25

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46631

食品医薬品安全処と食品医薬品安全評価院は、畜産物の安全管理強化のために新規登録された動物用医薬品ケトプロフェン、アナコリン、エフェドリンの一日摂取許容量 (ADI) を設定し、評価報告書「残留物質情報」をホームページ*に公開した。

* 動物用医薬品・農薬に関する情報を提供する残留物質情報

食薬処は今回設定したケトプロフェンなど 3 種*の ADI に基づき残留許容基準を設定し、合計 243 種に対して残留基準を管理することになり、動物用医薬品を使用した畜産物に対する安全管理が一層強化された。

* ケトプロフェン (消炎剤) : 牛の筋肉、脂肪、肝臓、腎臓、乳 0.05 mg/kg

* アナコリン (消化器治療薬) : 牛の筋肉、豚の筋肉、馬の筋肉 0.01 mg/kg

* エフェドリン (気管支拡張剤) : 牛の筋肉、豚の筋肉、羊の筋肉、馬の筋肉 0.01 mg/kg

● シンガポール食品庁 (SFA : Singapore Food Agency) <https://www.sfa.gov.sg/>

1. 変革への道 : 養豚を終えたシンガポールの養豚家たち

Journeys of Transformation: Singapore's Pig Farmers after Pig Farming

08 Sep 2022

<https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/journeys-of-transformation-singapore's-pig-farmers-after-pig-farming>

シンガポールの養豚の廃止後の変革について紹介。

1984年にシンガポール政府は養豚業を段階的に廃止すると決定した後、農家は速やかに次の生計手段を探して適応した。これらの農家がどうやって適応できたかを見ることで、この記事では何年にもわたってシンガポールの食料安全保障を向上させるために変革を続ける様子を示す。

2. 食品取扱者のマスク又はマウスシールドの着用に関する注意喚起について

Advisory on Wearing of Masks or Spit Guards by Food Handlers

08 Sep 2022

[https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/media-release-advisory-on-wearing-of-masks-or-spit-guards-by-food-handlers_24aug22_\(updatedon8sep\).pdf](https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/media-release-advisory-on-wearing-of-masks-or-spit-guards-by-food-handlers_24aug22_(updatedon8sep).pdf)

Covid-19の状況が落ち着いてきたことを踏まえて、一部の業種でマスク着用義務が緩和されたが、食品を扱う業種は引き続きマスクもしくは何らかの物理的バリアの着用が義務付けられていた。今回の更新により、ウェットマーケットの屋台における食品取扱者のマスク/マウスシールド着用義務については、そのまま喫食可能な食品（RTE）を販売する屋台で食品を取り扱う者にのみ適用される。この変更はスーパーマーケットでも同様で、着用義務はRTE食品に関連する売り場で働く者にのみ適用されることになる（例えば、寿司売り場、焼いた肉とデリ売り場やベーカリーコーナーなど）。

3. リコール情報

● SFAは安息香酸の含有により Hand Flower ブランドの醤油をリコールする

SFA recalls Hand Flower Brand Soy Sauce due to presence of benzoic acid

2 Sep 2022

<https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/sfa-media-release--recall-of-hand-flower-brand-soy-sauce.pdf>

シンガポール食品庁（SFA）は、安息香酸が基準値を超えて検出されたため、輸入業者 Heng Yoon Trading Pte Ltd にマレーシア産の Hand Flower ブランドの醤油のリコールを指示する。現在回収中である。

● その他

食品安全関係情報（食品安全委員会）から

（食品安全情報では取り上げていない、食品安全関係情報に記載されている情報をお知らせします。）

- フランス公衆衛生局、フランス国民の鉛ばく露の現状に関する質問に回答
- ベルギー連邦フードチェーン安全庁(AFSCA)、バーベキュー(BBQ)で安全に食事をするための注意点について情報を提供
- スペインカタルーニャ州食品安全機関(ACSA)、食品への二酸化チタン(E171)の使用を禁止する欧州規則(EU)2022/63 の同日付発効を通知
- 台湾衛生福利部、「食品添加物の使用範囲及び限量と規格基準」の第2条付表1の改正について公表
- 台湾衛生福利部、「ユーカリグロブルス及びその抽出物の使用制限」の草案を公表し、意見募集を開始
- ブラジル国家衛生監督庁(ANVISA)、国内の農薬製品における有効成分カルベンダジムの禁止決定を公表
- フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)、欧州委員会によるヒト用に確保される抗菌性物質のリストの発表を受け、動物用医薬品に関する欧州規則 No 2019/6 がもたらす変化について情報を提供
- イタリア保健省、国家残留物調査計画(Piano nazionale per la ricerca dei residui : PNR)の2021年の結果を公表
- フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)、ヒスタミン食中毒回避のための消費者向け注意事項を Q&A 形式で説明
- 国連食糧農業機関(FAO)、記事「食品安全からみた食用昆虫」を公表（英語）
- 中国国家市場監督管理総局、食品のサンプリング検査結果を公表(2022年第19号)

ProMED-mail

- 食中毒ーカナダ：(オンタリオ) トリカブト中毒疑い

Foodborne illness - Canada: (ON) aconite toxicity susp.

2022-09-01

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8705336>

Date: Tue 30 Aug 2022 Source: Global News [edited]

オンタリオ州 Markham のレストランで食事をした後、12人を病気にし4人を集中治療室送りにした原因は、植物毒素であると疑われている。2022年8月27-28日に Delight Restaurant & BBQ で食事をしたり、テイクアウトや配達を食べて具合が悪くなった人は医師に相談するように。保健当局は調査を行っている。意図的に毒素を与えたと疑う理由はない。

カナダ薬物使用と依存センター (CCSA)

カナダの低リスク飲酒ガイドラインへの意見募集開始

Consultation on Canada's Low-Risk Alcohol Drinking Guidelines opens today

August 29, 2022

<https://ccsa.ca/consultation-canadas-low-risk-alcohol-drinking-guidelines-opens-today>

2022年9月23日まで

カナダの低リスク飲酒ガイドライン パブリックコメント用の最終報告書

Update of Canada's Low-Risk Alcohol Drinking Guidelines:

Final Report for Public Consultation

August 2022

<https://ccsa.ca/sites/default/files/2022-08/CCSA-LRDG-Update-of-Canada%27s-LRDG-Final-report-for-public-consultation-en.pdf>

(一般向け要約)

- ・ 例え少量でもアルコールはあなたの健康に良くない
- ・ 飲み方を考え直そう
- ・ 科学は進歩し、そのため昔と違うことを言う必要がある。飲酒に関する助言は変える必要がある。
- ・ 私たちは今や、例え少量でもどんな種類でもアルコールはあなたの健康に有害であることを知っている。赤ワインだろうと白ワインだろうと、ビールやスピリッツでも、問題ではない。あなたがお酒に強くても変わらない。
- ・ 例え少量でも、飲酒は全ての人に影響する、男性でも女性でも、若者でも高齢者でも。
- ・ 事実それは生物学的で生理的なことである。
- ・ だから飲酒は少ない方が良い
- ・ アルコールによる帰結のリスクは週あたり何杯飲むかによる。
 - 0杯はリスクはない。妊娠中は飲まない以外の選択肢はない
 - 週2杯未満は負の影響を避けられるだろう
 - 週3-6杯は乳がんや大腸がんリスクがあがる
 - 週7杯以上は心疾患や脳卒中リスクが上がる
- ・ それ以上飲めば飲むほどリスクは上がり、他の病気や怪我のリスクも指数関数的に上がる

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室